

今日の卒業式に関して、お話をしたいことがあります。式が始まる時、教頭先生が、「平成28年4月1日226名入学し、以来3年間、本校で学んでまいりました。途中、転出や転入がございましたが、晴れて本日、225名が卒業式を迎えることになりました」という学事報告をしました。

みなさんは、3年前の4月5日、満開の桜の下、中野中学校の門をくぐられました。人数は226名、伊藤晃大君も、入学式の一日だけ、中野中学校で過ごすことができました。次の日から病院の院内学級で闘病を続けていましたが、残念ながらその年の7月7日に帰らぬ人となってしまいました。しかし、後にお母さんから「晃大君は、毎日中野中学校のホームページを見て、中学に通う事を楽しみにしていたこと、そして学校の始まる時間に合わせ中野中学校のカバンを持って、院内学級に席を移して勉強していたこと。（実際に病院で受けた一学期の理科の期末テストは81点でした。）、血液内科の医師になるという夢に向かって頑張っていたこと。一度も弱音を吐かなかったこと」などを教えていただきました。

『ワンピース』という漫画で感慨深い言葉があります。ドクターヒルルクというお医者さんの言葉で、「人はいつ死ぬと思う？心臓を銃で撃ちぬかれた時か？違う。不治の病に侵された時か？違う。猛毒きのこのスープを飲んだときか？違う。・・・それは人に忘れられた時だ。」というものです。

伊藤晃大君、忘れるどころか私はこの3年間、ホームページを更新するときには、「楽しみにしてくれている人がいるんだ」と思い、一昨年11月に、晃大君を診てくれた光洋支援学校の先生が学校に来てくださり、68期生に講演いただいた際、最後に「みなさん、これから夢を持ってどう生きていきたいかを考えてほしい」とメッセージされた時には、「どうやってみなに夢を持ってもらおうか」と必死に考えたり、また問題を抱え弱音を吐きたくなつた時には、「晃大君は決して弱音を吐かなかつたんだなあ」と励まされたりしてきました。私の中では晃大君は生き続けています。まずは卒業式を迎えるにあたり、68期生の伊藤晃大君に感謝したいと思います。ありがとうございます。

さて。

今日ここに義務教育の全課程を修了されて、晴れて卒業の日を迎えた皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ただいま皆さんに、その証として卒業証書をお渡しすることができ、本当にうれしく思います。改めて、卒業生の皆さんこれまでの努力を讃えるとともに、心からお祝い申し上げたいと思います。おめでとうございます。

保護者の皆様 お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心も身体も共にたくましく成長されたお子様の姿に、皆さまの胸にも熱き思いがあふれていらっしゃることと存じます。そして、この3年間、今まで、本校教育に、ご理解とご協力を賜りました事、改めて感謝いたします。

また、本日、ご来賓の皆様方には、公私何かとご多用のところ、晴れのこの良き日にご臨席を賜りました事、また平素より、本校教育活動へのご支援はもとより、地域の未来

を担う子どもたちの健全育成にご尽力いただいておりますこと、高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございます

さてみなさん、私は中野中学校で5度目の卒業式になるのですが、5年前から、今日の卒業式で、みなさんにしたいと思っていたお話があります。

それは、『国の宝』の話です。みなさんに『身の回り=一隅（いちぐう）を照らす人になって欲しい』ということです。街の片隅にいても、自分自身が置かれたその場所で、精一杯努力し、明るく光り輝くことのできる人こそ、何物にも変えがたい貴い国の宝であるという話です。私は、5年前は、一人ひとりにできるだけ大きな夢を持って欲しいと思っていたし、言っていました。しかし、大切なのは夢の大きさではなく、一人ひとりがそれぞれの場所で、自分の持てる力を尽くすこと。そうすることで、社会全体が明るく照らされていく。これが大切なと思うに至りました。「人の心の痛みがわかる人」「人の喜びを素直に喜べる人」「人に対して優しさや思いやりがもてる心豊かな人」こそ、国の宝なんだなと思うようになりました。これが『一隅を照らす』ということです。

私は、伊藤晃大君に照らしてもらいました。また一人ひとりのエピソードは話せませんが、68期生の皆さんにも、この3年間、さまざまな場面で照らしてもらいました。どうか、みなさん、これからみなさんのいる場所で、みなさんのできる精いっぱい、周りの人を照らすことのできる、周りの人を包み込むことのできる『優しい人』になつて下さい。

保護者の皆様に改めてお礼申し上げます。皆さまにとって、かけがえのない大切なお子様を3年間お預かりし、私たち教職員一同、精一杯努力を重ねてまいりました。この間、学校に対する保護者の思いや願いに充分お答えできなかつたこともあろうかと存じます。

しかし保護者の皆さまからは、常に温かいご理解とご協力をいただいて参りましたことに対し、本当に心より厚くお礼申しあげます。

今後は、ご来賓の皆様ともども、地域の良き理解者として、後輩たちの健全育成に、更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ別れの時が来ました。暖かな春を迎えようとしている今日の良き日、大きな翼を広げ未来に巣立っていかれる卒業生の皆さんに、アメリカの詩人ヘンリー・ワーズワース・ロングフェローの言葉を贈りたいと思います。

その言葉は

「雲の後ろでは、太陽がいつも輝いている。」
というものです。

これから的人生は、晴れた日ばかりではありません。心も同じです。心が厚い雲に覆われ、雨が降る日もあるでしょう、しかしその時でもなお、空を見上げてください。

厚い雲の向こうでは必ずいつも、太陽が燐々と輝いています。本当に辛い時、その言葉を思い出し、太陽を信じて、歩んでいってください。

この言葉を最後の贈る言葉として 私の式辞といたします。3年間ありがとう。

平成31年3月14日

大阪市立中野中学校長 山本哲哉